



柏原駅周辺まちづくり実現化方策の検討報告書



施策の方針図

施策の実施場所は以下のとおりである。

3.教育・文化芸術拠点の形成

・文化芸術や教育活動を通じた交流と創造の新たな拠点の形成を目指すため、図書館、公民館、ホール等の公共文化機能を再編・集約を図り、これらの機能を備えた複合的な施設の整備を検討します。

9.安全・円滑な地域交通の形成

・駅周辺における交通の安全性と円滑性を確保するため、都市計画道路である大県本郷線の開通を踏まえ、交通規制のあり方を含めた環状的な地域交通動線の形成を検討します。

11.商店街通りの活性化

・商店街のにぎわい創出や買い物機能の強化を図るため、官民の協働により、空き店舗・空き地の利活用、沿道店舗のオープン化、イベント時の歩行者天国の実施など、居心地がよく歩きたくなる商店街空間の形成に向けた仕組みづくりを検討します。

6.JR柏原駅周辺の公共空間活用

・駅とまちのつながりを強化し、交流や情報発信の場を創出するため、JR柏原駅の自由通路およびJR柏原駅西口の未利用空間の活用・再整備を検討します。

1.JR 柏原駅東口駅前拠点の整備

・駅利用者が安心して乗り換えや送迎を行える交通結節点としての機能を確保するため、歩行者の安全性及び利便性向上を図るとともに、多目的活用や防災性に配慮した駅前空間の整備を検討する。

5.長瀬川水辺環境の整備

・JR柏原駅から新たな文化芸術拠点を結ぶ主要動線として、歩行者優先の考え方に基づく歩きやすく居心地のよい空間形成を図るため、水辺空間の魅力向上及び休憩・交流機能を備えた滞在型の水辺空間の形成に向けた環境整備を検討します。

10.学校・運動施設の利活用

・地域の多様な活動に効果的に活用される場とするため、教育活動との両立を図りながら、学校施設及び運動施設の地域開放や防災・交流・にぎわい創出に資する活用について検討します。

4.拠点を結ぶ道路・歩行空間の整備

・主要な拠点である柏原駅東口駅前拠点、まちに開いたにぎわい拠点、教育・文化芸術拠点を安全で利用しやすい道路・歩行空間で結ぶため、都市計画道路である柏原駅東線及び法善寺築留線をはじめ、拠点間の道路・歩行空間の整備を検討します。

7.公共空間を活用した防災機能の強化

・災害時における市民生活の安心・安全の向上を図るため、公共空間や公共施設の整備にあわせて、防災トイレ、かまど機能付きベンチ、非常用電源、給水設備、照明設備等の防災機能の導入や、都市計画道路等における無電柱化の導入を検討します。

8.多様な移動手段に対応した環境の形成

・地区内における車以外の移動手段の充実を図るため、シェアサイクルをはじめとする多様なモビリティの利便性向上に向けて、公共施設等の主要な拠点へのポート設置や快適に移動できる周遊ルート等を検討します。

12.滞在性向上街路空間の形成

・日常的な休息や交流を促し、駅間の回遊性及び滞在快適性の向上を図るため、(市)上市法善寺線の歩道併設広場において、ベンチ、植栽、ストリートファニチャー等を備えた広場空間の整備・活用を検討するとともに、周辺の道路・歩道や沿道民地との連携による、居心地がよく歩きたくなる道路沿道空間の形成を検討します。

13.地域情報発信・回遊促進の仕組み構築

・地域の魅力や活動内容を効果的に発信し、商店街や地域資源への回遊を促進するため、地域情報・観光情報の発信環境の整備及び地域主体の持続可能な情報発信の仕組みづくりを検討します。

《凡例》

	拠点整備		自転車ポート
	幹線道路		旧ハローワーク
	地区内幹線道路		子育て支援施設
	水辺の歩行者動線		教育文化施設
	乗換え歩行者動線		オープンスペース
	商店街		まちかど広場

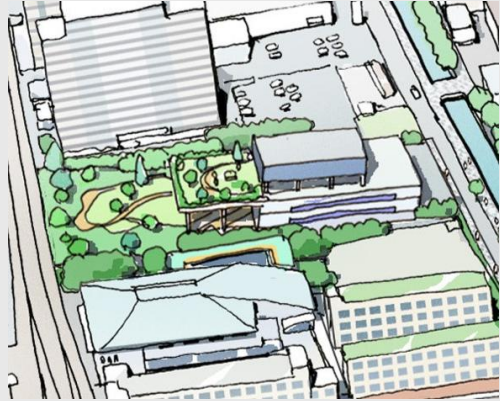


具体的な施策の検討

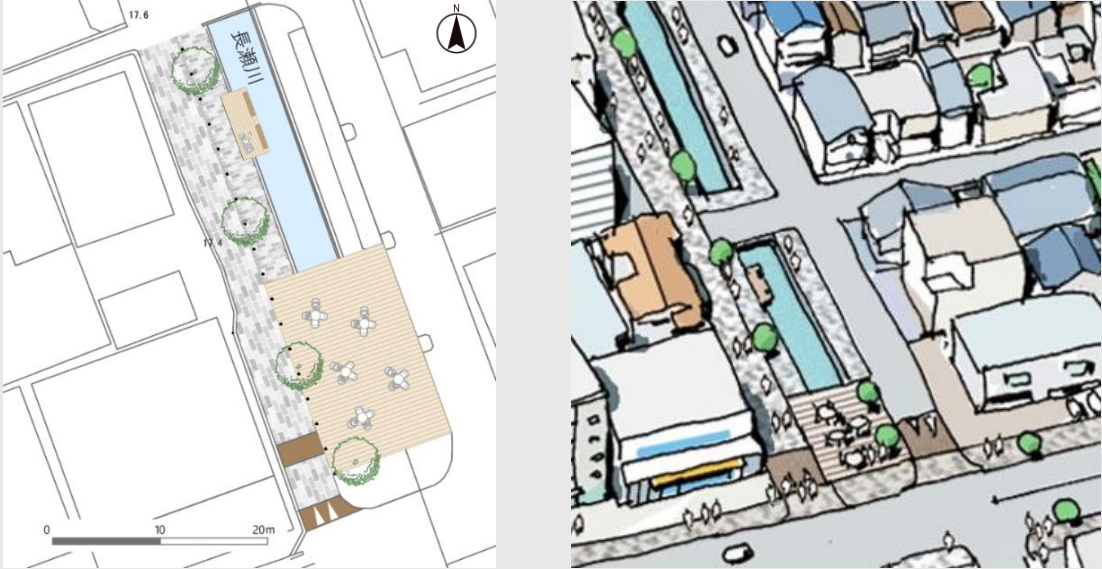


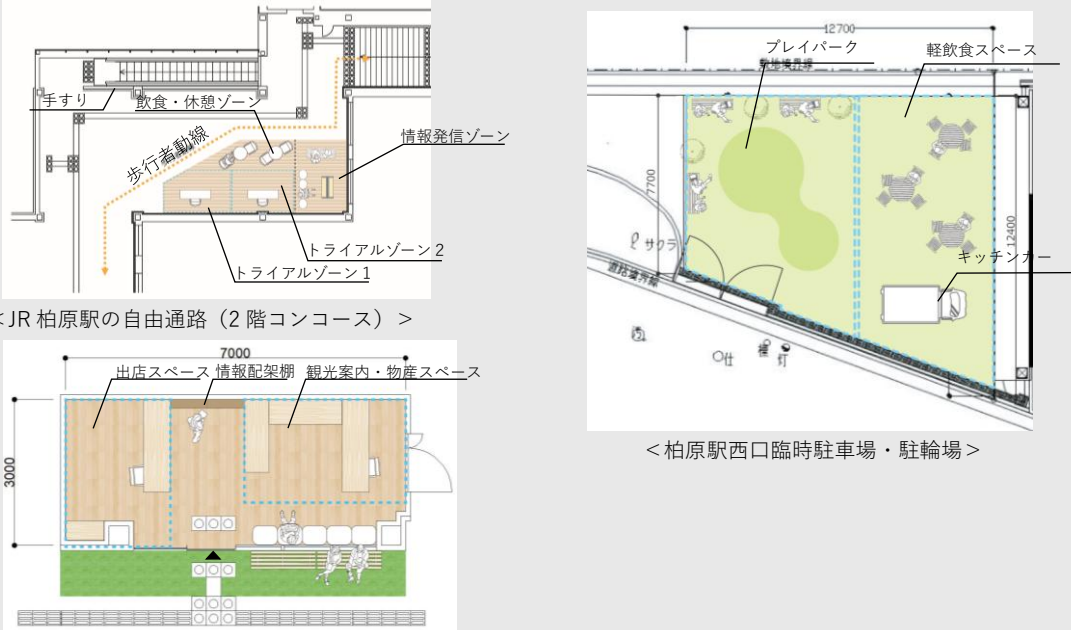
1 JR柏原駅東口駅前拠点の整備	
施策概要	・駅利用者が安心して乗り換えや送迎を行える交通結節点としての機能を確保するため、歩行者の安全性及び利便性向上を図るとともに、多目的活用や防災性に配慮した駅前空間の整備を検討します。
現状の問題点	・交通結節点としての駅前機能の不足 ・駅前拠点としての広場空間の不足 ・にぎわい・生活利便機能の不足 ・防災性及びユニバーサルデザインに配慮した空間機能の不足
整備方針	1.交通結節点としての駅前機能の再編 2.滞在を支える駅前広場空間の形成 3.にぎわいを支える駅前拠点の形成 4.防災性及びユニバーサルデザインに配慮した空間形成
整備イメージ	
整備における効果	・歩行者と送迎車両の動線分離による駅前交通の安全性・円滑性向上 ・休憩・待合等に対応した快適な駅前滞在空間形成 ・イベントや交流活動を支えるにぎわい拠点機能の創出 ・情報発信強化による地域回遊性及び地域活性化の促進 ・災害時にも対応可能な安全・安心な駅前空間の形成 ・バリアフリー・ユニバーサルデザインによる誰もが利用しやすい移動環境の形成
実施における課題	・警察、交通事業者等の関係機関との調整 ・限られた駅前空間の中で交通機能と滞在空間を両立させる空間構成の整理 ・国庫補助制度の活用を含めた財源の確保および事業期間の適切な設定 ・地権者や関係者との合意形成および周辺地域への影響に配慮した事業推進 ・駅前のにぎわいを維持・向上させる空間活用や運営の検討
概算事業費	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50％ ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50％ ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50％ ・官民連携基盤整備推進調査費 補助率：約 50％

2 まちに開いたにぎわい拠点の形成	
施策概要	・地域（まち）に開かれたにぎわい・交流を創出する拠点の形成を目指すため、柏原市民文化センターの移転に伴う、同センター跡地と上市公園の官民連携による一体的な拠点整備を検討します。
現状の問題点	・だれもが安全かつ快適に利用できる公園環境の不足 ・まちとのつながりや交流・滞在を支える空間機能の不足 ・将来的な施設再編を見据えた拠点形成の必要性
整備方針	1.まちに開いた開放的な公園の再整備 2.だれもが安全・安心に利用できる公園機能の充実 3.公園利用者の利便性向上に資する交流・滞在機能の導入 4.官民連携による持続的な管理運営手法の導入 5.災害時にも活用できる防災機能の導入
整備イメージ	
整備における効果	・民間活力を活かした魅力的なにぎわい・交流拠点の形成 ・継続的な公園利活用と日常的なにぎわい創出 ・多世代が日常的に利用しやすい公園環境の形成による利用促進 ・休憩・交流空間の形成により周辺との一体性及び地区内回遊性の向上 ・民間資金や民間活力を導入した効率的な整備による行政負担の軽減 ・基盤整備による防災機能の向上
実施における課題	・周辺動線と一体化した空間整備に向けた協議調整 ・持続的な管理運営に向けた事業採算性確保 ・交流・イベント利用を支える基盤整備整理 ・公共性と民間活用のバランス確保 ・事業費・財源を踏まえた整備手法整理 ・官民連携における役割分担・運営ルール整理 ・安全性・防犯性・バリアフリーに配慮した空間検討 ・防災機能導入と災害時運用体制整理
概算事業費	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50％ ・都市構造再編集集中支援事業 補助率：約 50％ ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50％ ・官民連携基盤整備推進調査費 補助率：約 50％

3 教育・文化芸術拠点の形成	
施策概要	・文化芸術や教育活動を通じた交流と創造の新たな拠点の形成を目指すため、図書館、公民館、ホール等の公共文化機能を再編・集約を図り、これらの機能を備えた複合的な施設の整備を検討します。
現状の問題点	・既存公共施設の老朽化・遊休化 ・公共文化機能の分散による連携不足と拠点性の低下 ・文化芸術拠点と周辺地域との連携不足 ・立地特性を活かした日常利用・土地活用の不足 ・交通環境・アクセス及び持続的な管理運営の課題
整備方針	1.多様な世代が集う教育・文化芸術拠点の形成 2.公共文化機能を集約した複合施設の整備 3.拠点内外における安全で利用しやすい環境の形成 4.周辺地域へのにぎわい波及・回遊性の形成
整備イメージ	  出典：西明石地域交流センターicotto 建設工事 実施設計概要版（明石市） <イメージパース>
整備における効果	・多世代が交流し文化芸術活動に触れられる拠点形成 ・多様な市民活動に対応した柔軟な複合施設機能向上 ・都市機能集約による拠点性・施設利便性向上 ・誰もが安全かつ快適に利用できる施設環境形成 ・周辺施設と連携した駅周辺の回遊性・にぎわい向上
実施における課題	・図書館・公民館・ホール機能の規模や配置、連携方法の整理 ・市民ニーズや多世代利用を踏まえた導入機能・空間構成の検討 ・周辺施設との回遊性や防災性を踏まえた施設環境の整備 ・補助制度活用に向けた施設機能・整備時期・財源計画の整理 ・維持管理や費用負担、民間活力導入を含めた運営手法の検討
想定する補助メニュー	・都市構造再編集集中支援事業 補助率：約 50% ・地域未来交付金 補助率：約 50%(補助上限 10 億円) ・官民連携基盤整備推進調査費 補助率：約 50% ・民間資金等活用事業調査費補助事業 補助率：約 100%(上限 1,000 万円)

4 拠点間を結ぶ道路・歩行空間の整備	
施策概要	・主要な拠点である柏原駅東口駅前拠点、まちに開いたにぎわい拠点、教育・文化芸術拠点を安全で利用しやすい道路・歩行空間で結ぶため、都市計画道路である柏原駅東線及び法善寺築留線をはじめ、拠点間の道路・歩行空間の整備を検討します。
現状の問題点	・安全で連続した歩行空間の確保不足 ・交通動線の錯綜による安全性の低下 ・地区内拠点を結ぶ回遊・滞在環境の不足 ・拠点形成を支えるアクセス環境の不足・道路空間を活用した地域活動・にぎわい創出の仕組み不足
整備方針	1.拠点間を安全・安心に移動できる道路・歩行空間の形成 2.交差部等における交通安全性の向上 3.だれもが円滑に通行できる移動環境の形成 4.滞在・回遊性を高める道路空間の形成 5.道路沿道空間を活用したにぎわい・滞在機能の誘導
整備イメージ	   <(都)柏原東線・(都)法善寺築留線> <橋梁の交差点付近> <柏原中学校前の道路・歩道>
整備における効果	・拠点間を安全かつ円滑に移動できる道路・歩行空間の形成 ・交通動線の整理により、交通の錯綜軽減と安全性が向上 ・誰もが安全・安心に移動できるバリアフリー空間の形成 ・滞在・休憩・交流を促す快適で歩きたくなる道路空間の形成 ・拠点間の回遊性及びまち全体のにぎわい・滞在性の向上
実施における課題	・都市計画道路の整備効果発現まで長期間を要する ・沿道地権者との合意形成と用地確保が必要 ・交通動線を踏まえた道路空間再編の整理が必要 ・多数の関係機関との協議・調整が必要 ・維持管理体制や民間機能誘導方策の整理が必要
想定する補助メニュー	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50% ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50% ・都市構造再編集集中支援事業 補助率：約 50% ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50%

5 長瀬川水辺環境の整備	
施策概要	JR 柏原駅から新たな文化芸術拠点を結ぶ主要動線として、歩行者優先の考え方に基づく歩きやすく居心地のよい空間形成を図るため、水辺空間の魅力向上及び休憩・交流機能を備えた滞在型の水辺空間の形成に向けた環境整備を検討します。
現状の問題点	- 滞在・交流空間の不足 - 歩行環境及び交通安全性の不足 - 地区内の回遊性の不足 - 利活用環境及び運営環境の不足 - 景観形成及び多様な利用者への配慮の不足
整備方針	1.滞在・交流を生み出す水辺空間の整備 2.歩行者中心の道路・歩行空間の整備 3.地区内の回遊性を高める歩行者動線の形成 4.継続的な利活用を支える基盤整備及び運営環境の構築 5.景観形成及び多様な利用者への配慮した環境整備
整備イメージ	 <シアードスペース、水辺空間整備のイメージ> <イメージパース>
整備における効果	- 自動車速度の抑制による、安全・安心な歩行者空間の形成と歩行者数の増加。 - 水辺空間の再整備による、立ち寄り・滞在・交流を促す居心地のよい空間形成。 - 歩行者空間の整備による、地区内の移動円滑性・回遊性の向上と来訪者数の増加。 - 水辺空間の魅力向上と利活用基盤整備による、地域交流活動や日常利用の促進。
実施における課題	- 水路暗渠化や通行空間再編に向けた整備条件・維持管理方法の整理。 - ゾーン 30 プラス導入に向けた交通規制・安全対策の具体化。 - 景観・利用動線・滞在機能・安全性のバランスを考慮した、一体的な計画の整理。 - 利活用を支える基盤整備と、周辺住民に配慮した運用・管理体制の構築。 - 事業費や整備効果等を踏まえた、優先順位・財源確保・段階的整備の整理。
想定する補助メニュー	- 社会資本整備総合交付金 補助率：約 50% - 防災・安全交付金事業 補助率：約 50% - 交通安全対策補助(地区内連携) 補助率：約 50% - 都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50% - まちなかウォークアブル推進事業 補助率：約 50%

6 JR柏原駅周辺の公共空間活用	
施策概要	駅とまちのつながりを強化し、交流や情報発信の場を創出するため、JR 柏原駅の自由通路および JR 柏原駅西口の未利用空間の活用・再整備を検討します。
現状の問題点	●JR 柏原駅の自由通路（JR 柏原駅構内 2 階コンコース） ・通行機能が中心であり、休憩、交流、情報発信等に資する滞在機能が不足。 ●JR 柏原駅西口 1 階（旧市民サービスコーナー） ・待合、交通案内、観光案内、休憩、交流、情報発信等の機能が不足。 ●柏原駅西口臨時駐車場・駐輪場 ・駅周辺の低未利用地としての活用方針が未整備。
整備方針	1.JR 柏原駅自由通路における利活用空間の整備 2.JR 柏原駅西口旧市民サービスコーナーにおける利活用空間の整備 3.柏原駅西口臨時駐車場・駐輪場における利活用空間の整備 4.公共空間活用の仕組みの構築
整備イメージ	 <JR 柏原駅の自由通路（2 階コンコース）> <JR 柏原駅西口 1 階（旧市民サービスコーナー）> <柏原駅西口臨時駐車場・駐輪場>
整備における効果	・駅前の滞在・交流機能の充実により、にぎわいを創出。 ・観光案内や情報発信機能により、周辺施設への回遊性が向上。 ・休憩や待合空間の整備により、利便性・快適性が向上。 ・民間活用の促進により、新たな事業展開や地域経済が活性化。 ・駅東西をつなぐ拠点形成により、一体的なまちの魅力と回遊性が向上
実施における課題	・多数の関係者との協議・調整が必要。 ・公共性、公平性、安全性を確保するための利用条件、占有手続等の整理が必要。 ・行政・民間事業者・地域団体等の役割分担を踏まえた管理・運営体制の構築が必要。
想定する補助メニュー	・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50% ・まちなかウォークアブル推進事業 補助率：約 50% ・地域未来交付金 補助率：約 50%(補助上限 10 億円) ・官民連携都市再生推進事業 補助率：50%

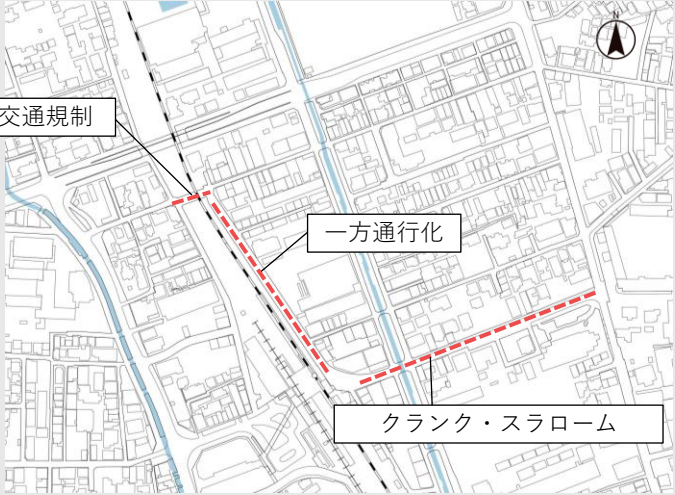
7 公共空間を活用した防災機能の強化

施策概要	・災害時における市民生活の安心・安全の向上を図るため、公共空間や公共施設の整備にあわせて、防災トイレ、かまど機能付きベンチ、非常用電源、給水設備、照明設備等の防災機能の導入や、都市計画道路等における無電柱化の導入を検討します。		
現状の問題点	・災害時に必要となる生活支援機能の不足 ・災害時の電柱倒壊による避難・緊急車両通行への支障リスク ・防災拠点の役割や災害時対応に関する周知不足 ・避難動線や緊急車両・物資搬入経路の未整理		
整備方針	1.公共空間における防災機能の整備 2.災害時の活動拠点となる公共施設の活用 3.災害時の安全性向上に向けた無電柱化の検討 4.防災拠点の周知と地域防災力の向上 5.災害時に活用できるインフラ機能及び維持管理体制の確保	整備イメージ	
整備における効果	・災害時の一時滞在・支援活動環境の向上。 ・災害時の情報発信・活動環境の向上。 ・防災意識・地域防災力の向上。 ・無電柱化による、道路閉塞リスク低減と避難・緊急車両通行の安全性向上。 ・防災拠点の周知による、円滑な避難行動と拠点活用の促進。	想定する補助メニュー	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50％ ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50％ ・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50％ ・まちなかウォーカーブル推進事業 補助率：約 50％

8 多様な移動手段に対応した環境の形成

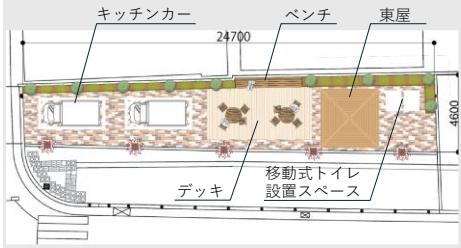
施策概要	・地区内における車以外の移動手段の充実を図るため、シェアサイクルをはじめとする多様なモビリティの利便性向上に向けて、公共施設等の主要な拠点へのポート設置や快適に移動できる周遊ルート等を検討します。		
現状の問題点	・多様な移動手段を利用しやすい環境の不足 ・安全で快適な自転車通行環境の不足 ・地区内外における回遊環境の不足	整備及び取組イメージ	
整備及び取組方針	1.多様な移動手段の導入可能性の検討 2.多様な移動手段に対応したポート整備の検討 3.自転車等の回遊ルートの形成 4.自転車等の通行環境の改善		
整備及び取組における効果	・回遊性と拠点間連携の強化 ・自動車依存の低減 ・駐車場需要と自動車交通負荷の軽減 ・安全で快適な交通環境の形成 ・回遊促進とアクセス性向上	想定する補助メニュー	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50％ ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50％ ・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50％ ・まちなかウォーカーブル推進事業 補助率：約 50％

9 安全・円滑な地域交通の形成

施策概要	・駅周辺における交通の安全性と円滑性を確保するため、都市計画道路である大県本郷線の開通を踏まえ、交通規制のあり方を含めた環状的な地域交通動線の形成を検討します。		
現状の問題点	・西一番踏切における交通安全性の不足 ・周辺道路ネットワーク及び自動車動線の整理不足 ・東西移動における利便性・安全性の不足 ・通学路及び生活道路における安全対策の不足		
整備及び取組方針	1.社会実験を通した段階的な地域交通のあり方の検討 2.交通規制と道路ネットワーク再編による安全な地域交通の形成 3.西一番踏切における安全で円滑な通行環境の改善 4.歩行者の安全確保に向けた歩行環境の整備推進 5.東西移動及び生活道路における地域交通の形成		
整備及び取組イメージ	  		
整備及び取組における効果	・歩行者・自転車通行環境整備による、安全かつ円滑な交通処理の実現。 ・西一番踏切交通規制による、歩行者・自転車の安全性向上。 ・道路ネットワーク再編による、自動車交通の分散・円滑化。 ・通行空間の明確化及び動線整理による、多様な利用者が安全に移動できる環境形成。 ・交通機能の役割分担整理による、駅東西間移動利便性と回遊性の向上。 ・社会実験による、地域実態に即した実効性の高い交通施策導入。		
実施における課題	・交通規制導入に伴う周辺道路への影響検証と交通処理の整理。 ・利便性低下に配慮した地域住民等との合意形成。 ・社会実験等を通じた交通影響・安全性の十分な検証。 ・関係機関との協議・調整を踏まえた実施条件の整理。 ・道路ネットワーク再編に伴う事業手法・財源確保等の整理。 ・日常的な交通需要への配慮と維持管理等の運営体制の整理。		
想定する補助メニュー	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50％ ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50％ ・交通安全対策補助(地区内連携) 補助率：約 50％ ・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50％ ・まちなかウォーカーブル推進事業 補助率：約 50％		

10 学校・運動施設の利活用			
施策概要	・地域の多様な活動に効果的に活用される場とするため、教育活動との両立を図りながら、学校施設及び運動施設の地域開放や防災・交流・にぎわい創出に資する活用について検討します。		
現状の問題点	・地域に開かれた学校施設等の活用環境の未整備 ・既存利用との調整を踏まえた多目的利用の余地の不足 ・教育活動と安全確保を前提とした地域利用条件の未整理 ・防災・交流・にぎわいを兼ねた活用方策の未整理 ・将来を見据えた学校施設・跡地活用の方向性の未整理		
整備方針	1.学校・運動施設の地域開放の推進 2.施設利用の仕組みづくりと情報発信の充実 3.安全確保と管理体制の整備 4.防災・交流・にぎわい創出に資する学校施設等の活用 5.将来を見据えた学校施設活用の検討	整備イメージ	 <イメージパース>
整備における効果	・地域活動・交流機会の創出促進 ・学校施設の利用促進 ・地域コミュニティ及び多世代交流の促進 ・地域利用と教育活動の両立 ・地域防災力の強化と駅周辺のにぎわい創出 ・計画的な施設活用	想定する補助メニュー	・地域未来交付金 補助率：約 50% (補助上限 10 億円) ・官民連携都市再生推進事業 補助率：50% ・公立学校施設整備負担金 負担割合：1/2、1/3

11 商店街通りの利活用			
施策概要	・商店街のにぎわい創出や買い物機能の強化を図るため、官民の協働により、空き店舗・空き地の利活用、沿道店舗のオープン化、イベント時の歩行者天国の実施など、居心地がよく歩きたくなる商店街空間の形成に向けた仕組みづくりを検討します。		
現状の問題点	・歩行者・自転車利用者の安全性・利便性の不足 ・滞在・回遊を促す沿道空間の魅力不足 ・空き店舗活用体制の不足と商業機能の低下 ・商店街活動を支える担い手・運営体制の不足	整備イメージ	 <イメージパース> <沿道店舗のオープン化のイメージ>
整備方針	1.歩行者中心の歩行環境の形成 2.空き店舗等を活用した商業機能の強化 3.滞在空間の創出と地域活動の促進 4.駐車場・駐輪場の確保による商店街利用における利便性の向上	整備イメージ	
整備における効果	・安全で快適な歩行・滞在環境の形成 ・開放的で滞在しやすい空間の形成 ・商業機能の強化と商店街のにぎわい創出 ・安心できる環境の形成による地域交流機会の創出 ・地区全体の回遊性・滞在性・魅力の向上	想定する補助メニュー	・防災・安全交付金事業 補助率：約 50% ・交通安全対策補助(地区内連携) 補助率：約 50% ・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50% ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50%

12 滞在性向上街路空間の形成			
施策概要	・日常的な休息や交流を促し、駅間の回遊性及び滞在快適性の向上を図るため、(市) 上市法善寺線の歩道併設広場において、ベンチ、植栽、ストリートファニチャー等を備えた広場空間の整備・活用を検討するとともに、周辺の道路・歩道や沿道民地との連携による、居心地がよく歩きたくなる道路沿道空間の形成を検討します。		
現状の問題点	・歩行者の滞在・交流空間の不足 ・歩道併設広場の滞在環境の不足 ・継続的な利活用に向けた基盤設備の不足 ・商店街等との連携不足 ・公共空間を柔軟に活用する仕組みの不足	整備イメージ	
整備方針	1.公共空間を活用した滞在空間の形成 2.にぎわいを支える利活用環境の整備 3.公共空間の利活用制度の構築 4.広場ネットワークの形成による回遊性の向上	整備イメージ	
整備における効果	・まちなかの滞在快適性及び居心地の向上 ・歩行者の回遊性の向上 ・日常的なにぎわいと交流機会の創出 ・周辺商業へのにぎわいの波及 ・公共空間活用の促進と沿道空間の魅力向上	想定する補助メニュー	・社会資本整備総合交付金 補助率：約 50% ・防災・安全交付金事業 補助率：約 50% ・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50% ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50%

13 地域情報発信・回遊促進の仕組み構築			
施策概要	・地域の魅力や活動内容を効果的に発信し、商店街や地域資源への回遊を促進するため、地域情報・観光情報の発信環境の整備及び地域主体の持続可能な情報発信の仕組みづくりを検討します。		
現状の問題点	・地域情報・観光情報の発信機能の不足 ・JR 柏原駅周辺における滞在・交流・情報取得機能の不足 ・商店街や地域資源への回遊を促す仕組みの不足 ・多様な情報発信手段及び運用体制の不足	整備イメージ	
整備方針	1.駅周辺空間を活用した情報発信の環境整備 2.多様な情報発信手段の活用 3.駅空間における滞在・交流・情報取得環境の形成 4.商店街や地域資源への回遊を促す情報発信の実施 5.地域主体の情報発信を支える運用体制の検討	整備イメージ	 <デジタルサイネージ (イメージ) >
整備における効果	・回遊性と拠点間連携の強化 ・自動車依存の低減 ・駐車場需要と自動車交通負荷の軽減 ・安全で快適な交通環境の形成 ・回遊促進とアクセス性向上	想定する補助メニュー	・都市構造再編集中支援事業 補助率：約 50% ・地域未来交付金 補助率：約 50% (補助上限 10 億円) ・まちなかウォーカブル推進事業 補助率：約 50% ・官民連携都市再生推進事業 補助率：50%

